
愛す人と花火(承)

ブータロー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛す人と花火（承）

【Nコード】

N4589C

【作者名】

ブータロー

【あらすじ】

僕は誘います。佐藤美和子さんを！彼女は僕の誘いを聞いてくれるんでしょうか？

ここは、某町。

警視庁のあつてコナン達が在宅する街。

この大きな街にとある一人の女刑事が住んでいる。

誰からも信頼されていて活発な女性^{ひと}。

そして、警視庁でも人気であり性格も優しい。

そんな珍しい人種である佐藤美和子はある一つのマンションに留まっている。

いつもなら警視庁で仕事を行っていたものの今日は非番で休んでいた。

そんな彼女の一日ももう過ぎていく。

ちょうど夜になって来たころ、いつもなら来る事の来客が訪れた。

2

「あ、あのねえ白鳥君・・・？」

佐藤刑事が狼狽えながらつぶやく。

玄関で立ち止まってあたふたをする。

「では、僕と花火に行くのを断るのですか？仮にも僕はキャリア組ですよ。そんな僕の誘いを断るなんて・・・もったいないですよ。」

白鳥警部は佐藤刑事をあおるように話しかける。

「あつ、あの・・・いやその断るつもりなんて・・・」
赤々とした顔を隠しながらぼそつとつぶやく。

「じゃあいんですね・・・僕の誘いに応えてくれるんですね・・・」

白鳥警部は何気に佐藤刑事の手を取る。
そして連れ出す準備をする。

（えっ・・・）
佐藤刑事は白鳥警部の突然の大胆な行動にたいして驚きを隠せなかった。

いや、もともと大胆な行動をするけどここまで積極的な行為もあの見合い以来だ。

佐藤刑事は驚きの色が隠せない。

佐藤刑事の表情が赤く染まる。その瞬間を白鳥警部は逃さなかった。

（佐藤さん・・・）
真剣な眼差しで見詰める。

その眼差しに見つめられていた佐藤刑事がはっと我にかえる。

「とにかく行きましょ！？私だってたまには息抜きぐらいするわよ。」

照れた顔のまま靴をはいて行くばかりの準備をする。

「お母さん花火見に行くからね・・・」
母親の方を向いて笑顔でつぶやく。それから白鳥警部をチラッと見

る。

玄関のドアを閉める『ボタン』という音が響く。響く音を無視して二人は出ていった。

白鳥警部の車に乗り込む。佐藤刑事は助手席に座ってシートベルトをつける。

白鳥警部はエンジンをかけて車を走らせた。

目的地に向かって……。

もうすぐ花火の場所では？

(後書き)

ブータローです

うん、起承転結の承のストーリーです

白鳥サンのライバルのワタルサンはまだ登場しません (<|>)

佐藤刑事の指輪はまだはめていません f ^ | ^ ;

さて、どうなるのか？

残りの2つは気が向いた時に書きます

でも9月2日までには絶対に書きます

学校始まるので・・・

ちなみに出だしは起のストーリーと同じようにしました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4589c/>

愛す人と花火(承)

2010年10月9日02時46分発行